

# 法善寺便り

第28号

お正月特集

発行所	辻市58番
発行人	北条善宗
発祥地	北条法善寺
発刊日	1980年1月1日
TEL	0812

とじて保存しましょう。



本妙山法善寺前撮

清の初の園遊び、木に花の咲く如く、山に草の生い繁るが如く、我も人も喜ぶ入つて候つ。

障木は通ふれば、人は蓋目帳をなせば必ず出づ。

(善初親善会・弘安五年正月)  
(下野魁・海軍・弘安三年正月)

### 明けまして

おめでと〜うございませぬ。本年も宜しく。

さてお正月には「おめでと〜う」と挨拶をかわしますが「おめでと〜う」にはどんな意味があるとお思いでしょうか。これにはいろいろの説があるようですが、我々仏教徒としては水遣いのように考へるべきだと思ひます。

「お正月」とは生命(いのち)の更新運動の喜び、もつと端的に言へば「生かされてゐる自分が有り難い」という感謝の一念を表す

言葉として受け取たいものです。大目見界を見ても、香々しい縁の新年に木々がよみがえる姿は、こよなく美しい、「生の喜び」を感ぜさせます。縁を伴わない自然の姿にも生前の芽を見るのです。万物の長たる我等人間が生命の身を見ず、生かされて在ることを忘れて良いものでしょうか。

上掲のお手紙は、共に日蓮大徳人がお正月の年節に昇せられたお言葉であります。新春のよろこびは、深い眠りからさめた山々が生の源泉をたくましく示す鳥花の芽生えと、すべて葉を打ち落した木々にやがて花咲き薫る生のよみがえりを感ずる。先ずは多くの人々と共によろこびたいと、さらに大衆人は、人の善根こそ幸福と安楽をもたらすものと断ぜられ、一年の生死の間に善根がいかに大切かを教えておられる。

お寺はそのために止しく生かせる人生の道場であります。ご先祖はご木仏に祈禱する秘其の生前の縁であります。この事実をお互いに話つきり感懐して、人懐くしく振舞う縁を、ただ年一度のお正月に止まらぬことなく、毎月行なうのが当山の普通な御祭なのです。

## ◆ 霊神符所持のすすめ ◆

当山のお守りを持さんは一度は、見たり聞いたり、手にされた事があるでしょう。多分それは受胎や産後の時、旅行や病気の時、交通安全の祈りなど、何か特に人生の大事を期期や災難に当ってそれを切りぬけられた事です。このお守りを懐中霊符と申します。

現在当山では縁起の皆さんを始め有縁の方で千、五百五十人もの方々がお守りになっておられます。持つ人の縁起条件は、月が替われば前月のお守りを感謝をこめてお寺の御宝前に納め、新しいお守りを白から押し置き、それを肌身はなさず所持すること、受けた月を忘れた月があるようでは、まず、ご恩恵を戴く資格はありません。ご縁起に着手の御祭行あるのみ、毎月一日の縁起御祭の時に、除災招吉、交通安全安全寺の御祈禱をし、授けたいしてあります。そして皆さんの手に渡るまで、東京の本部と当山で五ヶ月に祈禱をこめ、授けの後も一ヶ月毎毎日念を、加えています。未だお持ちでない方もお廻り御祭の神妙を戴く、この御生霊を身に付けましょう。

〈身延山参拝旅行案内〉

例年好評をいただいております身延山参拝の旅を、本年は左記の通り実施することになりました。皆様各員多数ご参加下さいませ。御案内申し上げます。

記

出発 四月十六日 午後二時集合  
本寺にて道中安全祈願の後午後四時三十分北条を出発  
行先 第二十一回参拝団全由利乗身延山大会参加、村邊館所本徳寺等寺院めぐりと  
白都・大板瀬光  
(四月五日)  
の旅  
四月二十日  
午前八時半



会費 未定、なお後日詳しい日程が決まりましたら、申込案内書をお配りいたします。

申込 申込書として二万円をそえて法善寺までお届下さい。  
締切 三月一日(但し定員になり次第締め切りますのでお早々お申込下さい。)

主催 日蓮宗 法善寺 実行団

「信仰問答」

問い 年回法要の意味とまじりを教えて下さい。

答え 年回法要は、遺族が故人の願いを理解し、その努力に感謝し、限らない追憶の情と慶の安らかなことを願って行う祈りの儀式です。

法華経の一節に「この世の中は根やかな半括を造り、死んだ後は安らかな善き所に生れる」という言葉があります。しかし、亡くなった人が浄土へ行つて安らぎを得る為には、後に残った人達の追善供養が必要なのです。

一週忌、三週忌は中国の礼記の小祥、大祥により、七回忌、十三回忌などは十一支の数で準じたなどと言われています。そして以下当地方では十七回忌、二十五回忌、三十三回忌、五十回忌、六十八回忌、百回忌(それ以後は五十年毎)

しかしこの年回は墓前慰霊の助めです。本来は毎日指日か御法事なのです。せめて、年回には遅れないように(年回の機軸は年末より本堂にはり出しています。一そして何年の正當と前日忌には家族揃って心込めたお題目の供養を。

「一・二・三月の行事」

止月(正月)法要七時より  
○新年法要追善法会 法要招待参行

○一月四日より、お正月参り  
大祓札と願をお配りに参ります。

一月六日より二十日まで毎夜七時  
○護国中道行、始まる。  
如願修行坊務員多、各家ご安楽心願成就の為、奮ってご参加を。

二月二日午後七時より  
○御分限祭財庫祈願会 参行  
家内安全、厄年の方の厄払い、車交通安全を祈願希望の方は前日までにお申込下さい。

なお、当日参詣の方には全員に厄除けの梅豆を差し上げます。  
三月十六日午後七時より  
○志願日蓮上人入道法要会 参行  
新入学児童の学業成就祈願  
仏教教育の推進の上願。

三月十八日より二十四日まで  
○春参 彼岸会 お檀家へ  
ご先祖のご冥福に伺います。

「毎月の信行会」

午後七時より、  
一日 その月法要祈願会  
十日 宗祖御成道忌参行  
二十三日 清正公御成道忌参行  
◎毎月一日には、願書御参りと交通安全などの願守りの授け。

◎毎月の信行会や行事にも、修行の為、伺参願つてご参詣下さい。

あめしごかき  
新しい年が始まりました。今年には寅年に当たります。寅といふのは、十二支の第二位で、方角では東北を指し、時刻では午前四時頃に当たるといふことです。

方位から見ても時動の上からいっても、まさに今年は「夜明け」の意味をもった「寅」の年に当たるので、大いに張り切って、この一年を胆の勇る意気を持って進んで行きたいものであります。

但し、虎が獲物をねらって、飛びかかって行くような、思慮なき衝動だけでは深慮しないで、気をひきしめて何事も一期一会の心算で、この一年を歩取りましょう。

